

# 兵庫県軟式少年野球協会 大会規約

1. 大会運営は大会規約にもとづく(大会日程の変更内容については十分に周知徹底して下さい)。
2. 開会式当日は、主催者側から指定された時間並びに場所に集合し、写真撮影後、開会式を行う。  
各チームの責任者は選手を把握して本部に報告し、進行係の指示に従うこと。  
チーム旗、プラカード(支部名入り)を必ず持参すること。
3. 選手登録は10人から20人以内とし、入場行進も20人以内とする。同一服装であること。  
登録にあたっては学年の制限はないが、2年生以下は試合には出場できない。(ベンチ入りは許可する。)
4. ベンチ入りはチームの代表者、監督、コーチ、スコアラー、(5人以内)と登録選手以外は立ち入り  
禁止とする。ベンチは抽選番号の若い方が1塁側。
5. ベンチ入りは同色同型のユニホーム、アンダーシャツ、背番号、帽子、ストッキング、スパイクシューズ  
を着用しなければならない(サングラスは着用禁止)代表者、スコアラーは自チームのグランドコート、  
(白の襟付きシャツ)帽子、ズボンは白又は紺色を着用すること。
6. 背番号は監督30、コーチ29,28、主将10、選手は0から27番までとする。
7. 試合中は、監督の手袋、グランドコートの着用禁止(選手の手袋は許可する)。
8. 試合の進行上、予定時刻が早くなる場合を考慮して球場へは1時間前に到着し、直ちに本部に連絡し  
指示に従うこと。
9. 試合予定時刻を過ぎても到着(連絡)のない時は棄権とする。
10. 試合前に、出場メンバー全員をメンバー表に記入(ふりがな付記)し、本部に5部提出のこと。  
前の試合の4回終了時に監督、主将、審判立会いで攻守をジャンケンで決める。又グラウンドルールの  
説明も行う。
11. ベンチ内での携帯電話、喫煙、ガム等は禁止、メガホンは1個にかぎり許可する。
12. 危険防止のため打者、走者、ベースコーチはJSBB公認の(両側にイヤラップ付き)ヘルメット  
バットを使用のこと。又ヘルメットは8個以上用意のこと(大人用バット使用も認める)。
13. 捕手はJSBB公認のマスク(スロートガード付き)、プロテクター、レガース、ヘルメットを使用  
のこと。控え捕手も正捕手と同様に、上記防具を危険防止のため着用させる。
14. 試合開始と終了後の挨拶時には、両チーム指導者はベンチ前に整列し挨拶を交わすこと。
15. 試合中の抗議は、当該選手、監督とし、それ以外は認めない。
16. 試合は原則として7回戦とする。但し5回以降7点差があればコールドゲームとする。  
同点の場合の勝敗の決め方  
ア)一回戦から準決勝戦までは、特別延長戦で決定する。継続打者で前回の最終打者を一塁走者とし  
二、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち一死走者満塁の状態にして、最高2イニング  
行い得点の多いチームを勝ちとする。  
特別延長戦でも勝敗が決しない時は抽選で決める。なお通常の延長戦と同様、規則によって認め  
られる選手の交代は許される。  
イ)決勝戦は最高2イニングまで延長し勝敗が決しない時は、特別延長戦を最高2イニング行い、  
なお同点の場合は抽選で決める。
17. 攻守交代は駆け足で行う。
18. 夏季大会の全試合並びに秋季大会の2日目以降は1時間30分の時間制限ゲームとする。  
秋季大会の1日目及びジュニア選手権大会は1時間20分を過ぎて新しいイニングに入らない。  
新しいイニングに入るのは審判の判断による。
19. 大会は日没の関係上、シートノックはしない。各イニングの初めのボール回し、一巡は認める。
20. グランド内での素振り用バット及びバットのリングは使用禁止する。
21. 投手が変化球を投げることは禁止する。変化したかの判断は球審がする。
22. 足を高く上げてのスライディングは危険防止のため禁止する。現実これが妨害になったと審判員が  
認めた場合は、守備妨害で走者をアウトにする。
23. プレイヤー及び審判員への個人攻撃は禁止する。犯した時は審判員か控え審判員(本部役員を含む)  
が注意を与える。再度注意を与えても聞かない時は、退場させる。
24. 好ましくない野次行為には、審判員、控え審判員が積極的にそのチームに注意を与える。

25. ネット裏からのビデオ撮影は禁止する。(バックネットの範囲とする)
26. タイムの成立は、プレイヤー、監督が要求した時でなく、審判員がタイムを宣告した時である。
27. 投手が手首にリストバンドやサポーターなどを使用することを禁止する。なお負傷で手首に肌色の包帯などを巻く必要がある時は、球審の承諾が必要である。
28. 投手はボールデットになった場合、必ずプレートを踏み球審のプレーに従い投球に入ること。
29. 試合をスムーズに進めるため、サインは手際よく出すこと。打者はバッテリーボックスの中でサインを見ること。(打者が正規の打撃姿勢をとらない時は、投手は打者に投球してはならない)
30. 攻守交替のとき、攻撃に移るチームのランナーコーチと第一打者はミーティングに参加せず所定の位置につくこと。
31. 捕手の内外野へのかけ声は定位置でかけること。
32. 走者がリードしていないにもかかわらず、投手が塁へ“山なり”のゆるい“牽制球”を投げる行為は牽制球とはみなしがたく「投手の不必要な遅延行為」に該当し、ボークとなる。
33. 試合前グラウンドに入って指導できるのは、ベンチ入りする監督、コーチにかぎる。
34. 監督が同一イニングに二度投手のところに行き、自動的に交代となった投手は他の守備位置につけるが、そのイニングには再び投手には戻れない。
35. 試合中雷が発生した場合、試合を中断する。従って木製のバットの用意は必要ない。
36. 控え選手が自チームに声援を送る時は、ベンチより1メートル以上出ないこと。(ファウルラインの近くまで出ないこと)
37. 特にユニホームのズボンのスソが下までおろした履き方は絶対に禁ずる。
38. グラウンドの周辺には、タバコの吸殻やゴミなどは絶対に捨てないようにし、各自チームのゴミは必ず持ち帰ること。
39. 大会参加の車には必ずチーム名を見やすいところに貼り、駐車場係の指示に従うこと。
40. 試合当日の車の運転は、所要時間に余裕をみて、くれぐれも安全運転に心がけて下さい。